

共生・公正・創造



# 東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## 【シリーズ16】

JR総連・東労組衰退期に発生した三大怪奇事件

JR九州労大量脱退事件

革マル組合員の不安と動揺を抑え勢力再逆転を企図したもぐり込み大作戦

「坂入事件」まで派生させてしまった「JR九州労大量脱退事件」の責任者

< JR東日本労政 『二十年目の検証』 66ページから76ページより >

## 革マル派による坂入充氏拉致・監禁事件

革マル派による坂入充氏拉致・監禁事件（以下「坂入事件」という）の発生が世間に知られるようになったのは、JR総連の機関紙、平成12年(2000年)11月13日付『JR総連通信』(第435号)によってである。平成12年11月3日発生した同事件の経緯と概要については「もう一つの未完の『国鉄改革』」(月曜評論社刊)で論述したので、ここでは平成14年4月中旬の「坂入氏帰宅」で一応終止符を打ったその後の主要な事柄の幾つかについて述べる。

なお、坂入氏の帰宅は、事件発生約1年半後であるが、JR総連と坂入氏夫人操子さんは、坂入氏の行方が不明のまま、“同氏帰宅”に半年以上も先立つ平成13年8月9日、革マル派への告発と警察への捜索願いを取り下げるといふ不可思議な行動を取った。

また、当時革マル派は、機関紙『解放』その他によって再三再四、「南雲巴こと坂入充は同派の古参党员である」と暴露し、また、行方不明中の坂入氏自身も革マル派の集会に出て“自己批判”や“JR総連・東労組幹部批判”を行ったり、自筆署名のいわゆる『坂入書簡』を各界の知名人に送付したりしていたというのに、何故か、JR総連・東労組は、今に至るも事件の調査や坂入氏への事情聴取を行った気配はない。そして、当然ながら組合員や会社その他関係箇所への報告など一切行っていない。

捜索願いが出た以上放置もならず、警察は相応の国費を費消して捜査を行なっているし、また、JR総連・東労組組合員は集会や駅頭ビラ配付などに多数動員されたり、JR東日本会社もまたJR連合傘下の他労働組合なども坂入事件の発生でイメージ低下その他、多大な迷惑を蒙った。にもかかわらずJR総連・東労組のこの“不可解”な対応ぶりは、「非常識」、「不誠実」などの謗りは免れないところだということを、ここで強く指摘しておかなければならない。

< JR東日本労政 『二十年目の検証』 76ページから77ページより抜粋 >

# 民主化の声・声・声・・・

2005.11.04

その16

## 長野・新潟問題で、青年部也大荒れ！

### 青年部中常で、長野・新潟の青年部長を排除！

東労組長野地本青年部情報誌「Aggressive 12」によると、9月30日に本部青年部第2回中央常任委員会が開催されたが、長野・新潟の参加が認められなかったという。

その理由は、

**長野** 指令11号に則る立場に立っていない。

**新潟** 新潟の青年部長として認められない。

これに対し、『長野は指令11号に従わないのでなく、認識の違いが制裁理由となる根拠を解明しなくては納得できないという立場だ。だからこそ会議の場において双方の主張を出し合って、一定の結論を出すべきだ。会議への参加を認めないということは、長野・新潟の想いは加味しないということであり、まさに暴挙と言わざるを得ない』と反論している。

この会議に参加していた千葉書記長と佐々木中執に「これが労働組合の組織運営なのか？」と問うたところ、千葉書記長はダンマリ、佐々木中執に至っては一言「さようなら～」と言い放つ始末だったという。

既報したように、第20回本部青年部定期委員会で、長野地本が「内なる敵」にされ、本部青年部長選挙でも新潟地本の阿部青年部長が立候補し惨敗したようだ。また、質疑においては、議長が新潟・長野からの委員の質問は認めず、採決は経過報告からスローガンまでことごとく東労組A組（本部派）と東労組B組（内なる敵）は、真っ二つに割れたようだ。

「本部VS新潟・長野」の構図は青年部まで波及し、修復不可能なところまできている。労働組合の崩壊は、青年部の暴走か分裂から始まることは過去の歴史が証明している。未来を担う青年部が、このまま突き進んでいくとすると、東労組の組織崩壊は近いのでは。

排除の論理による作られた団結ではなく、自由にモノが言える職場をみんなでつくろう。

## 内部抗争で明け暮れる東労組の崩壊は近い！！